



21 世紀の12気筒2+2モデルとして、2004年に送り出されたのが612スカリエッティである。車の名の612は、総排気量の6ℓ（厳密に言えば5.8ℓ）と、気筒数の12を示唆する。サブネームに用いられたスカリエッティとは、かつてフェラーリのワンオフ・ボディを手掛け、アルミ加工を得意としたカロッツェリアと、その創立者であるセルジオ・スカリエッティの名に由来する。ちなみに現在、スカリエッティはフェラーリに吸収され、ボディ製作部門として活躍中だ。



全長は約4.9m。ホイールベースに至っては456GTに対して350mmも長い2950mm。それでいて重量増はプラス10kg。アルミ・スペースフレーム構造のメリットが生きる。大面積のガラスがはめ込まれたエレクトロクロミックルーフは、濃淡を3段階に調整することが可能だ。

仕上がっているという。エクステリアは、映画監督のロベルト・ロッセリーニがイングリッド・バーグマンに贈った54年のワンオフ・モデル、375MMスカリエッティ・クーペがモチーフだ。

これによって、456GTに対してホイールベースを350mmも長い2950mmまで延長したにも関わらず、重量増加は10kgに留まる。さらにはフロント・ミッドシップ化とトランスアクスル・レイアウトの採用により、前後重量配分は後輪駆動車として理想的な46:54を実現した。

ノーズに収まるのは578ccのV12エンジンで、最高出力は540psを發揮する。組み合わせられるトランスミッションは6速MTと、ATモードでの運用をメインに開発された2ペダルMTのF1Aマチックとの2種類が用意された。

612 Scaglietti

V12初のアルミシャシー

612スカリエッティ



612 Scaglietti

- 全長×全幅×全高: 4902mm×1957mm×1344mm
- ホイールベース: 2950mm
- 乾燥重量: 1760kg
- エンジン: V型12気筒5788cc
- 最高出力: 540ps/7250rpm
- 最高速度: 320km/h